

四谷の

千枚田だより



第 262 号



棚田地域振興法の一部を改正する法律案概要

第一背景

棚田地域振興法は、貴重な国民的財産である棚田を保全し、棚田地域の多面的機能の維持増進を図ることを目的として、令和元年に議員立法により成立

(令和七年三月三十一日失効)

棚田地域の振興を引き続き図るため、法期限を延長するとともに、移住、定住及び二地域居住の一層の促進等現状の課題に合わせた改正が必要

第二改正の概要

一 法期限の延長

法期限を五年間(令和十二年三月三十一日まで)延長

二 都道府県棚田地域振興計画に係る改正

都道府県棚田地域振興計画と他の地域振興に関する計画との調和規定に二地域居住促進法の「特定居住促進計画」を明記

三 農地法等による処分の迅速化に係る規定の追加

国の行政機関の長又は地方公共団体の長は、指定棚田地域内の土地を認定棚田地域振興活動計画に記載された用途に供するため農地法等の処分を求められたときは、当該処分が迅速に行われるよう配慮す

る規定を追加
四 指定棚田地域の振興に資する事業に関する情報提供の努力義務の追加

国及び地方公共団体は、指定棚田地域の振興に資する事業に関する情報を関係者に提供するように努める規定を追加

五 各種配慮規定の追加等

1 農業の振興等

① 生産基盤の強化(災害復旧及び災害復興に係るものを含む)、地域特産物の開発並びに生産、流通及び消費の増進、先端的な技術の導入並びに観光業その他の産業との連携の推進

② 鳥獣の捕獲、防護柵の設置等による鳥獣による被害の防止等

③ 棚田地域の農業の振興に寄与する人材の育成及び確保の明記

2 移住、定住及び二地域居住の促進

① 空家活用を含む住宅等の整備、棚田地域の住民が日常生活を営むために必要な環境の持続的な確保に資する地域的な共同活動への支援等

② 棚田地域への移住等をしようとする者への情報提供等

3 都市等と棚田地域の交流の促進等
棚田地域に対する国民の理解と関心を深めること及び農泊の促進

その他の都市等と棚田地域との間の交流の促進等

4 棚田地域との関わりを持つ者の間における連携及び協力の確保

農業者、農業者の組織する団体、地域住民、NPO 特定地域づくり事業協同組合、学校、事業者等の間における緊密な連携及び協力の確保
施行期日：令和七年四月一日。ただし、第二の一は公布の日。

展望

四谷の千枚田地域振興協議会は令和三年二月十二日に設立、同年四月十六日、国の指定棚田地域振興活動計画に認定された。令和四年三月二十五日には「つなぐ棚田遺産」にも認定。本制度に加入している。

絵画コンクール作品募集

第八回「四谷の千枚田」絵画コンクール

(主催) 鞍掛山麓千枚田保存会・東三河郵便局 後援 新城市、新城市教育委員会、新城市観光協会、奥三河観光協議会、東愛知新聞社)で実施します。応募対象は小学生・中学生。受付期間は八月一日～九月三十日。入賞者には本年度新米・図書券・五平餅セット他多数。

問い合わせは ☎ 0532-29-0808 NPO 法人国内産米の粉伝統食文化推進ネット <http://kokukome.com/> チラシ・応募ハガキは千枚田案内看板、東三河管内郵便局、新城市鳳来寺山自然科学博物館、奥三河観光協議会、八雲だんご直売店ほか

愛知県新城市
第8回「四谷の千枚田」
絵画コンクール
2025
作品募集

受付期間 令和7年 8月1日～9月30日
テーマ 「四谷の千枚田」 四谷の千枚田の「自然」や「農作業風景」、「体験学習」など、自由に描いてください
応募対象 小学生・中学生
応募方法 専用の応募はがき、もしくは郵便はがき(官製はがき)にてお1人1枚、ご応募ください
審査 ①東三河郵便局店頭 ②四谷の千枚田案内看板前③八雲だんご直売店他
10月中旬以降に鞍掛山麓千枚田保存会、東三河郵便局が応募者の中から入賞者を選出。NPO 国米ネットホームページ上で発表
主催 鞍掛山麓千枚田保存会、東三河郵便局
後援 新城市、新城市教育委員会、新城市観光協会、奥三河観光協議会、東愛知新聞社

入賞商品 当 NPO 法人ホームページに記載
本年度新米・図書券・五平餅セット他多数
ご応募いただいた全ての作品は返却いたしません。また、受賞作品に限らず、全ての作品の使用権は、主催者に帰属するものといたします。主催者と協賛社が作成する出版物、広告媒体、ホームページ等に作品と学校名・学年及び氏名を無償で使用させて頂く場合がありますのであらかじめご了承ください。

NPO法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワーク
☎0532-29-0808 御内八製菓内
(当 NPO 法人ホームページ: <http://kokukome.com/>)

四谷の千枚田の四季おりおりの風景を掲載しておりますので QR コードからご覧ください。

四谷の千枚田に新しい案山子が やって来た

毎年七月、「四谷の千枚田保存継承」に力をいただく豊橋市高田町の「丸八製菓」八雲だんごのご厚意でリアルな案山子を設置、訪れる人々に感動を与えている。

製作は設楽町津具の「チームTAKO」で、欽ちゃん香取慎吾の全日本仮装大賞に十九回連続出場、準優勝、マリ賞受賞などを獲得。先日は大阪・関西万博に「全日本仮装大賞」グランドチャンピオン大会に主催者の日本テレビからレジェンドとしてオフアールが掛かり、出場するなど、筋金入りのメンバーでもあり、四谷の千枚田の応援団でもある。



案山子の設置は六日、メンバーが試行錯誤しながらの傑作。千歯抜きで稲の穂先を歯の間に通して引き、籾を落とし、(脱穀)、唐箕の風で籾殻やゴミを選別。傍らでは脱穀したわら束を背負って運び出すなど、一連の農作業を再現した。

午前八時から二時間以上かけて完成。リーダーの村松一志さんは「田んぼが立体的にそうう千枚田の景観に合わせた。とても満足いく仕上がりです」と話した。

この、等身大の新しい案山子たちは、都市近郊から訪れる観光客に愛嬌を振り撒き、癒しを提供する千枚田の親善大使でもある。

アフリカ地域 稲作振興のため の中核的農学研究者の育成

毎年、名古屋大学 江原教授の依頼で JICA アフリカ稲作現地研修を行っている。今年は七月九日にアフリカ六か国(スーダン二名、南スーダン、エチオピア、ウガンダ、ジンバブエ、ザンビア)で、それぞれが農業研究公社・農業研究所・農業助講師・国立農業研究機構研究技術者・農村開発省研究員など、そうそうたる肩書きで、アフリカ諸国を代表する農学研究者でもある。研修目的は「四谷の千枚田における稲作」であり、湧き水、天日干し、化学肥料の依存に限らず、冬季に干草を田んぼに鋤込むなど、有機農業にも取り組んでいる。また、生きものと共生した体に優しい米づくりを目指している。等々の説明を行った。

除草については、実際に田んぼに入り「はったん」を転がして見せた。農学研究者の代表からは「大変参考になった。国に帰り、取得した技術

を糧に研究に努める。」と挨拶を頂



害獣被害に手こずる

今から三年ほど前までは四谷の千枚田のある連谷地区一帯に一群約二十四匹のニホンザル五集団が定着。群れごとの生活圏を築いていたが、現在では三軍団と減少したものの一群れあたり約五十四匹に拡大。兎にも角にも、乱暴狼藉な厄介者だ。先ほども細尾の孝ぼおとの「げなゲナ嘶」に網の中で育てたナスやキウウリが食べごろになったので採ろうと思ったが、生憎ハサミがなく明日の朝取れば良いと思い、翌朝来てみたらもぬけの殻に盗られてしまった。はははは(笑い)。という次第である。いずれにしても採ろうと思ったら、その時、その場で採らないと、まず口に入ることはない! 彼らも食料難で必死であらうし、また、彼らは彼らなりに人間様が一生懸命に作ってくれていると勘違

い? 収穫するのが当然の義務と言わんばかりに貴重面に周辺の田畑の作物の収穫期を観察(把握)している。そうそう、昨年ホウライジュリが見事に咲いたのでサルに花芽を食べられないように金網か何かで保護柵を作らなければならぬと思った矢先に見事に花芽を食われてしまった。残念。無念。

厄介者のニホンジカもこの地に侵入した当時は大きな被害は無かったが、個体数の増大から食糧難、食性の進化からイノシシよりも厄介者となつてしまった。以前は田んぼに入っても稲を踏み倒すなどの被害が若干あったが、一昨年来、早苗や稲穂を食べることを知ってしまった。また、稲架の稲を食べる被害が続出した。困ったもんだ。



行 令和七年七月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二